

(様式1)

学校番号 (小・**中** 018 )

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 ( 入野中 ) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・学校、家庭、地域で協力して子供を育てるために、具体的にできることを考える。
- ・不登校問題について、学校との密な連携のもと、委員会としてできることに取り組む。
- ・部活動地域移行の動向について、情報交換していく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた    イ    できた    ウ    あまりできなかった    エ    できなかった  
(理由)

"夢に向かってたくましくよりよく生きる生徒" を目標に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みを確認できた。それぞれの立場で、生徒のあるべき姿、現状の課題を活発に意見交換し、学校の取り組みの重点や悩みを知ることで、委員が協力すべきことの概要がつかめた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ **ア** よくできた    イ    できた    ウ    あまりできなかった    エ    できなかった  
(理由)

2年目に入って委員相互が親しくなり、熟議でも意見交換が活発になった。不登校問題については、様々な立場からの想いを知る機会が得られ、新たな視点で不登校の実態の理解が深まった。部活動地域展開の現状について情報交換をし、多くの課題があることや地域でも考えていかななくてはならない問題であることを確認した。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った    **イ** 行った    ウ    あまり行わなかった    エ 行わなかった  
(理由)

学校から熟議の内容が「さくら連絡網」やホームページで発信され、保護者に周知でき、委員は内容を再確認できた。さらに情報発信する機会を増やし、身の回りから伝えていけるとよい。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

委員相互が更に相互理解を深め、人間関係を構築し、和やかに熟議の活発化を図りたい。最大の悩みの「不登校問題」について、学習ボランティアの確保やその体制づくりなど、委員会として取り組む活動ができると良い。